

港区長 殿

2023年 3月 31日

令和4年度第三者評価結果報告書

〒153-0063  
住所 東京都目黒区目黒2丁目10番  
5の101号  
電話番号 03-3495-4283  
評価機関名 特定非営利活動法人  
関東シニアライフアドバイザー協会  
代表者氏名 佐藤昌子

下記のとおり評価を行ったので報告致します

対象事業所	港区立高輪児童館												
評価者	1	山田紀子											
	2	藤田能成											
	3	神戸理											
	4												
評価実施期間	2022	年	6	月	27	日	～	2023	年	3	月	31	日
利用者調査実施時期	2022	年	9	月	30	日	～	2022	年	10	月	25	日
訪問調査日	2022	年	12	月	1	日							
評価者合議日	2022	年	12	月	8	日							
評価結果報告日	2023	年	3	月	31	日							

# 詳細講評

## 評価基準

A	評価項目を実施している
B	評価項目を実施しているが十分ではない
C	評価項目を実施していない

## I 福祉サービスの基本方針と組織

### I-1 理念・基本方針

通番	評価項目	評価	講評
(1) 理念・基本方針が確立・周知されている。			
1	① 理念・基本方針が確立・明文化され、職員及び利用者等に周知している。	A	児童館の理念・方針・年度目標は受付、事務室、学童クラブ室の見やすい場所に掲示して職員及び利用者等に周知しています。地域懇談会や保護者会では資料を配布して、館長が説明しています。

### I-2 運営状況の把握

	評価項目	評価	講評
(1) 運営環境の変化等に対処している。			
2	① 事業運営を取り巻く環境と運営状況を的確に把握・分析している。	A	地域や利用者に関する情報は、地区支所会議、児童館館長会、施設長会、学童クラブ連絡会などからの情報のほか、都や関係機関発行の冊子、区発行の広報や「今日の新聞から」の情報等を通して、幅広く収集し分析しています。また、毎年1月から2月にかけて利用者アンケートも行い、分析した課題や寄せられた意見や要望を目標に取り入れ、翌年度の事業計画を策定しています。
3	② 運営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	A	

### I-3 事業計画の策定

	評価項目	評価	講評
(1) 中・長期的な目標と計画が明確にされている。			
4	① 3～5年の中・長期的な目標を明確にした計画を策定している。	A	中長期目標は港区の基本計画及び実施計画・高輪地区版・港区地域保健福祉計画に基づいて策定され、閲覧できるようになっています。区の計画や地区総合支所組織目標、所管管理課組織目標をもとにして新年度の児童館年間目標と具体的な実施計画を策定しています。令和4年度は4項目の業務目標と、各目標の具体的な事業実施計画に基づいた児童館運営に取り組んでいます。
5	② 中・長期計画を踏まえた年度の計画を策定している。	A	

(2) 事業計画が適切に策定されている。			
6	① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	A	事業計画の実施状況の把握や評価・反省・見直しは、職員会議において実施内容の反省点や課題、利用者の声などを検討し、報告書にまとめることで、評価・見直しに取り組んでいます。実施した内容は「児童館だより」「学童クラブだより」「乳幼児用おたより」に記載して配布され、ホームページでも公開しています。児童館年間計画は地域懇談会でも地域や学校・PTAに資料として配布しています。
7	② 事業計画を利用者に周知し、理解を促している。	A	

#### I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

評価項目	評価	講評	
(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。			
8	① サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	A	児童館独自の年度計画に沿ってプログラム実施後に反省・評価を行っています。コロナ禍により子どもの体力の低下が課題となった時には、会議で検討して子どもの体力強化を図り、体幹を鍛えることを意識してスラックライン等の活動を実施しました。サービス向上に向けた課題や取り組みはその都度検討を行いながら、現場のサービスに出来るだけ早く反映できるように、取り組んでいます。
9	② 組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	A	

## II 組織の運営管理

### II-1 管理者の責任とリーダーシップ

評価項目	評価	講評	
(1) 管理者の責任が明確にされている。			
10	① 管理者は自らの役割と責任を職員に対して表明し、理解を図っている。	A	自然に恵まれた立地にあり、保育園、いきいきプラザが併設されているため、地域の乳幼児親子から高齢者までが集っています。各施設長、施設管理事業者がしっかり連携して、協力して安全管理、衛生管理を徹底しています。職員に対しては児童館、学童クラブに関わる要綱や条例・職員として遵守すべき服務規定や法令等が明記された「職員のためのハンドブック」を職員に配布しています。障害者差別解消法等の研修に参加した際は資料を共有し、日常業務に活かせるよう取り組んでいます。
11	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	A	

(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。			
12	① 質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	A	区の人材育成方針をもとに職員の育成指導を実施し、運営上の課題提起や業務の進行管理の確認、事務作業の効率化を図っています。日常の打ち合わせ会や職員会議では、報告・連絡・相談を徹底した上で、職員同士が意見を言いやすい雰囲気で行えるようにしています。館長は、職員が子どもや保護者の意見や要望に耳を傾け、迅速な対応が出来るように働きかけながら、職員それぞれの個性や強みを活かした援助が出来るように具体的なアドバイスをを行っています。
13	② 運営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	A	

## II-2 福祉人材の確保・育成

	評価項目	評価	講評
(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。			
14	① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組を実施している。	A	職員の募集、採用、配置に関する人材確保や人事考課等に関しては、職員採用基準、採用計画に従い区が一括して行っています。人事考課に関しては、人材育成基本方針による人事評価制度があり、自己申告書（目標管理制度）に基づく人事評価が行われています。館長・管轄課長による年3回の自己申告書の進捗状況の把握やキャリア開発等についての職員面談が行われています。
15	② 総合的な人事管理が行われている。	A	
(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。			
16	① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	A	区の「働きやすい職場づくり」施策に沿って超過勤務の上限規制や勤務シフト調整、年次有給休暇取得促進、ストレスチェック診断が実施されています。勤務シフトは、職員の協力を得ながら、一人ひとりの事情に配慮して作成されています。
(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。			
17	① 職員の教育・研修に関する基本方針や計画を策定し実施している。	A	研修は区の人材育成基本方針に基づいて作成した研修計画に沿って実施しています。研修には、都の研修、専門研修、区職員共通の階層別研修、児童館長会で計画した児童施設研修があります。年度初めの職員面談時に自己申告で希望した研修の受講の機会が確保されています。研修受講後は研修報告会を行って、研修内容の共有を図り職員の質の向上に取り組んでいます。
18	② 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	A	

19	③ 実習生の受入れに対する基本的な姿勢を明確にし、体制を整備している。	A	実習については「実習生受け入れの基本方針（マニュアル）」に沿って対応しています。今年度は近隣の中学校2校から、職場体験実習を受入れました。実習担当の職員は職場体験のプログラムに沿って実習計画をたて、仕事内容や実施している活動の説明を行い、子どもや保護者への対応方法や活動の準備、片付け等の実習を行いました。終了後は職員と一緒に振り返りや評価を行い、体験アンケートに記入してもらっています。
20	④ 実習生の育成について積極的な取組をしている。	A	

### II-3 経営の透明性の確保

評価項目	評価	講評	
(1) 透明性を確保するための取組みが行われている。			
21	① 公正かつ透明性の高い適正な運営のための取組を行っている。	A	事業運営に関しては、区の定期監査が実施されています。学童クラブのおやつ代や行事等の受益者負担金は会計報告を公開しています。児童館の事業等は児童館だよりやホームページで情報公開しています。また、学童クラブの保護者会では、子どもたちの日常活動を映像や写真で保護者が分かりやすい形で伝えています。
22	② 運営の透明性を確保するための情報公開を行っている。	A	

### II-4 地域との交流、地域貢献

評価項目	評価	講評	
(1) 地域との関係が適切に確保されている。			
23	① 地域との交流を広げるための取組を行っている。	A	地域の親睦団体が主催する「桂坂花いっぱい活動」には児童館を挙げて協力しています。坂道の道路沿いの花壇に季節の花を植える活動ですが、準備段階から職員が協力しています。花壇に花を植える作業には子どもたちも参加して地域の人たちと協働するひと時を共有しています。近隣の大学のボランティアサークルが企画した鉄道駅の見学プロジェクトにも参加させてもらいました。新しくできた高輪ゲートウェイ駅の裏側を見る絶好の機会でした。安全確保のために、子どもたちの帰宅時の送りの時を活用して、毎日地域の巡回点検を行っており、危険箇所、危険状況のチェックを怠っていません。子ども110番協力者のリストも館内に掲示しています。
24	② 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している。	A	
25	③ 地域社会で子どもが安全に過ごせるような取組をしている。	A	
26	④ ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	A	

(2) 関係機関との連携が確保されている。		
27	① 必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携を図っている。	A 複合施設の一部にあり、同一場所で保育園と高齢者が集う「いきいきプラザ」が運営されており、交流が行われています。その他、企業や大学とのコラボレーションを通じて多くの取り組みが行われています。
(3) 地域の福祉向上のための取組が行われている。		
28	① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組を行っている。	A コロナ禍にありますが、地域懇談会や青少年委員会等に手法を工夫しながら参加しています。子育て中の母親に対する保育付き母親事業も実施しています。外部インストラクターの指導のもとで、ヨガ教室や各種制作作業が行われています。年末には自宅玄関に飾るしめ縄の制作にも取り組みます。
29	② 地域の福祉ニーズにもとづく事業・活動を行っている。	A

### Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

#### Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

評価項目	評価	講評
(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
30	① 利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解を持つための取組を行っている。	A 何事にも迅速に対応し、積極的に問題解決を図るための報告・連絡・相談による情報共有に努めています。そのためには職員のスキルアップのための研修等の取り組みが大切であり、基礎的なPC操作スキルの向上をはじめオンラインミーティング等も積極的に取り入れています。職員はチェックシートによる接遇セルフチェックも行っています。利用者のプライバシー保護については区の定めにしたがって厳密に実施しています。
31	② 利用者のプライバシー保護に配慮した福祉サービス提供を行っている。	A
(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
32	① 利用希望者に対して活動選択に必要な情報を提供している。	A ホームページ上で様々な情報を毎月提供しています。「今月のキッズタイム」では日時や内容、好ましい服装なども提示して参加者を募っています。「今月の予定」では対象学年や内容、インストラクターがいる場合は、その紹介もなされています。中高生が集うには若干狭いという物理的な問題もありますが、中高生向けのプログラムも用意して可能な限り取り組んでいます。
33	② 利用開始・変更にあたり子どもや保護者等にわかりやすく説明し同意を得ている。	A

(3) 利用者の満足の向上に努めている。		
34	① 利用者の満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	A 低学年生と高学年生に分けて、毎年子ども会議を実施しています。今年は12月に1～2年生と3年生に分けて参加者を募りました。子ども面談も今年から始め、子どもたちの希望、要望の把握に努めています。
(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
35	① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	A 区が定めた「区民の声への対応マニュアル」に沿って対応しています。職員のスキルアップ手段としてクレーム対応研修にも参加しており、事例研究を含めたグループワーク等で知識の習得に努めています。保護者等から声が寄せられた場合には必要に応じて相談室を確保して、じっくり話を聞くようにしています。相談や意見に対しては、その日もしくは翌日の内に解決することを基本としており、すべての内容は相談記録および対応記録に記載して残しています。
36	② 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し周知している。	A
37	③ 利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	A
(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
38	① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制を構築している。	A 「安全安心を最優先とした施設運営」を児童館目標の第一に掲げています。子どもたちが地域で安全に過ごせる場所として、保護者が児童館を選ぶケースが増えてきています。コロナ禍での施設の利用制限下にはありますが、より良い受け入れ方法を試行錯誤しながら事業の再開、継続を行っています。新型コロナウイルス感染症対策としては区の作成した対応マニュアルや危機管理マニュアル、児童館長会で編纂したもの等を参照しながら取り組んでいます。今年度の成果としては、職員同士の支えあいによるチームワークの醸成が図れています。
39	② 感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	A
40	③ 事故・災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的に行っている。	A

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

評価項目	評価	講評
(1) 提供する育成支援の標準的な実施方法が確立されている。		
41 ① 個々のサービスについて標準的な実施方法を文書化している。	A	「事業実施計画及び引き継ぎ書」とタイトルを付けた、誰でも一目で理解できる独自の表を用いて事業の計画と実施、反省を行っています。1事業につきA4用紙1枚で、左に計画及び実施内容が記載されています。右欄には実施後の反省と次回への引継ぎ事項が簡潔に記載されています。1枚でPDCAが完結するよう工夫されたフォームで、計画立案から次回もしくは次年度への引継ぎ報告となっています。
42 ② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	A	
(2) サービス実施の記録が適切に行われている。		
43 ① 利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	A	行事を含む各事業については「事業計画及び引き継ぎ書」に利用者情報も含め適格に記録されています。その他指導日誌、行動記録、相談記録等に子どもと保護者に関して必要な記録が記載され、保存されています。毎日10:30と13:45に職員連絡会を行い、前日及び当日の情報共有を行っています。また、毎週1回職員全体の打ち合わせを実施しており、不在の職員は必ず翌日に議事録の確認をしています。10人あまりの少人数ですので情報共有は比較的容易ですが、漏れのないう確認を怠りません。
44 ② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	A	
45 ③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有している。	A	

## IV 児童館の活動に関する事項

### IV-1 児童館活動の環境整備

	評価項目	評価	講評
	(1) 利用者が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備		
46	① 安心して過ごせる場としての環境を整備している。	A	<p>自然に恵まれた公園内にあり、保育園、いきいきプラザとの複合施設であり、乳幼児から高齢者までが自然に集える施設となっています。コロナ禍ではありますが、子ども達の遊びの輪を広げ、充実した時間を過ごし、楽しく居心地の良い場となるよう環境整備に取り組んでいます。各部屋のマニュアルを職員間で話し合っって作成し、子ども達には目で見て理解できるようにポスター掲示をして、知らせています。また、乳幼児には、発達に合わせた玩具や絵本を選定したり、職員が積極的に関わりながら、親子が安心感の中で過ごせる居場所づくりを行うなど子育て支援を行っていますが、スマートフォン時代の保護者の状況に合わせた広報活動への一層の工夫が望まれます。また、中高生利用の促進は、館の構造上難しい現状があります。</p> <p>子どもたちが想像力と創造力を発揮して、自由に遊びが展開できるように、状況の変化に応じたあそびや居場所の提供を行っています。館内のスペースは限られていますが、職員の発想力と子どもとのやり取りからの気づきを活かして、様々な体験ができるように取り組んでいます。また、図書コーナーの絨毯スペースやベンチやマットを使って、くつろげる「居場所」の提供もしています。屋上では、ローラーホッケーやドッジボールなど、体を十分使って楽しみながら、チームとして、互いに仲間を意識して児童館の大会に臨んでいます。10月には、ハロウィン祭りも開催される等、異年齢の交流が日常的に行われています。</p>
47	② 遊ぶ際に守るべきルールが利用者に理解できるように決められている。	A	
48	③ 乳幼児から中高生までの児童すべてが日常的に気軽に利用できる環境がある。	B	
49	④ 利用者が自発的かつ創造的に活動できるように環境を整備している。	A	
50	⑤ くつろいだり、休憩できるスペースを作っている。	A	
51	⑥ 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている。	A	

(2) 乳幼児と保護者への対応			
52	① 乳幼児と保護者が日常的に利用できる環境を設定している。	A	乳幼児専用キッズルームには、年齢に合わせたおもちゃのカードが用意されており、保護者に分かりやすい形で貸し出しを行っています。週2回行われるキッズタイム事業はヨガやフラダンス、お話し会等テーマを決めて実施しています。ボランティアや民生児童委員の協力もあり、多彩なプログラムがありますが、保護者アンケートを行い、要望や意見を聞きながら、プログラムに取り入れています。 コロナ禍のために保護者同士の自由な交流はなかなかできませんが、児童館を利用することで、他の親子の様子を見たり、職員の声掛けや話しやすい雰囲気づくりにより、安心して過ごせる場として児童館ならではの子育て支援が来ています。
53	② 乳幼児活動が年間を通じて実施されており、内容が参加者のニーズに基づいたものになっている。	A	
54	③ 保護者同士が交流する機会が設けられている。	A	
(3) 児童への対応（核となる児童館活動）			
55	① 子ども自身が見通しをもって主体的に過ごせるように援助している。	A	毎月のカレンダーを掲示し、日々の活動予定のお知らせを配布して、子どもが行事や活動を楽しみにできるようにしています。活動前の館内放送や受付での個別の声かけ等でも、活動内容に興味を持てるようにしています。手洗い・うがい等の習慣が身につけられるように、洗面台などにポスター掲示をしたり、おやつや昼食の時にも、静かに食べることや片付けについても声かけ指導しています。来館時や帰る時の挨拶や言葉使い等、基本的な生活習慣についても子どもが自らできるように援助しています。 活動内容によっては、学年や体力、発達段階を考慮して行なうような仕組みがあり、日頃から、子どもの様子を職員全員で共有しています。
56	② 日常生活に必要となる基本的な生活習慣を習得できるように援助している。	A	
57	③ 子どもが発達段階に応じた主体的な遊びや生活ができるように援助している。	A	
58	④ 子ども同士の関係を豊かに作り出せるように援助している。	A	
59	⑤ 子どもが自分の気持ちや意見を表現することができるように援助している。	A	

(4) 中高生世代の利用に対する援助			
60	① 日常的に中高生の利用がある。	B	施設の構造上、中高生の利用には少し狭い現状があり、「中高生タイム」を設けて卓球やボードゲームの時間を取っていますが、利用促進が難しくなっています。ただ、今年度は近隣の2校の中学校の職場体験を受け入れたり、学童クラブの利用者だった子どもたちがOB・OGとして来館するようになっています。中高生の利用の仕方やイベントの工夫など、中高生の意見を取り入れながら、利用促進につながることを期待します。
61	② 中高生が主体性や社会性を養えるような活動を継続して実施している。	A	
(5) 固有の援助を必要とする子どもへの適切な支援			
62	① 障害のある子どもの特性を理解したうえで、受け入れに努めている。	A	障害のある子どもが学童クラブに入会する際には、必ず職員全員で対象児童の障害、個性を理解してから受け入れています。受け入れ時の面談を丁寧に行い、保育園への見学や情報共有を行い、個別に記録を取り、対象児や職員にとって最善の支援について職員全体で共通理解する努力をしています。また特別支援学校への見学や情報交換、巡回指導員による研修など、日々、最善の支援のために積極的に職員が学ぶ姿が見られます。
63	② 障害のある子どもの育成支援に当たっての留意点を踏まえ、育成支援を行っている。	A	
64	③ 児童虐待の早期発見に向けた取組や適切な対応を行っている。	A	子ども家庭センターや児童相談所との連携を図り、児童館ならではの取り組みを行っています。保護者からの育児相談を他機関に繋げたり、要支援家庭の見守り等、多様な背景のある親子への支援の入り口としての機能を果たしています。
65	④ 子どもの国籍や文化、習慣の違いに関わらず、互いを認め合い理解を深めるような取組を行っている。	A	職員が多様性についての研修に参加し、職員間で学びを深められるように共有しています。また、日本語でのコミュニケーションが難しい時は、自動翻訳機等を使って、コミュニケーションが図れるようにしています。
(6) 学童クラブについて			
66	① 子どもが学童クラブに自ら進んで通い続けられるように援助している。	A	誕生会など学童クラブ独自のイベントを実施しています。また、子ども達が楽しみにしているおやつも充実しており、コロナ禍で過ごす子どもたちの大きな楽しみになっています。子どもの出欠席や帰宅時間、連絡ノートの記載内容については、職員2名でのダブルチェックを行うとともに、全体把握用のホワイトボードに記載し、引き継ぎノートも活用して、職員間で情報共有を行っています。
67	② 子どもの出欠や帰宅時間の変更確認等を適切に行い、職員間で共有している。	A	

68	③ 保護者との協力関係を築いている。	A	子どものちょっとした変化や気づきであっても保護者に伝えることで、積極的にコミュニケーションを図っています。日頃から保護者の意見や要望に耳を傾け一緒に考える事で、保護者からの信頼が厚く、頼りになる存在として認識されています。
69	④ 子どもの生活の連続性を保障するため学校との連携を図っている。	A	児童館の地域懇談会には、校長が出席して館の活動への理解を深めてもらったり、職員も学校見学を行ったり、担任とも顔がつながる関係を築き、連携して子どもへの援助を行っています。
70	⑤ 放課後の時間帯におやつを適切に提供している。	A	学童クラブ内に「おやつリクエストボックス」を設置し、子どもたちからのリクエストを受け付けています。毎日最低でも1品の手作りおやつを必ず入れています。クッキーやポテト、白玉だんご、やケーキなど簡単なものですが、区内随一の内容と評判で、保護者からも喜ばれる取り組みです。
71	⑥ 食に伴う事故（アレルギー、窒息、食中毒等）を防止するための対応を行っている。	A	アレルギー対策として、材料のチェックを必ず行い、提供する際にもダブルチェックを行い、専用のトレイを使っています。
(7) 安全と衛生の確保			
72	① 子どもの安全を確保する取組を行っている。	A	通学路の点検や子どもの送り出しに合わせてパトロールを行っています。毎月テーマを変えた避難訓練を行い、防犯教室では子どもが自ら危険回避できるように教えています。
73	② 衛生管理に関する取組を適切に行っている。	A	衛生管理については、新型コロナウイルス対策に準じた取組を館長会で話し合い、「コロナ禍の児童館運営について」のマニュアルを作成して対応し、毎日の衛生管理を徹底しています。また、保健所の研修に参加して適切な衛生管理を実施しています。
(8) 広報活動			
74	① 広報活動が適切に行われている。	A	児童館だより、チラシやポスターは地域掲示板に掲示したり、ホームページ等を活用し、広報活動を行っています。チラシやポスターは近隣施設にも配布して、掲示してもらっています。
75	② 児童館の活動内容を分かりやすく知らせ、利用促進につながるように創意ある広報活動が行われている。	A	初めて利用する際には、受付で利用案内を使って丁寧に説明するよう努めています。新年度初めのお便りには、利用案内や児童館登録簿も掲載して配布しています。

## 総 評

### ◇特に良いと思われる点

#### ●利用者との信頼関係が構築されています

館長を中心に日頃から、子どもや保護者との良好な関係が構築されています。乳幼児親子には家庭的な雰囲気を感じ、育児の悩みに寄りそった対応をしています。活動中の子ども様子にも気を配り、ちょっとした変化や気づきであっても保護者に伝え一緒に考えるようにしています。また、保護者の意見や要望に耳を傾け迅速な対応を行うことで、保護者からの信頼が厚く頼りになる存在として認識されています。保護者アンケートでも感謝の意見が多く寄せられています。

#### ●計画から引き継ぎまでのPDCAが誰でも理解できるように工夫されています

「事業実施計画及び引き継ぎ書」とタイトルを付けた、誰でも一目で理解できる独自の表を用いて事業の計画と実施、反省を行っています。1事業につきA4用紙1枚縦型で、左欄に計画及び実施内容、右欄に実施後の反省と次回への引継ぎ事項が簡潔に記載されています。計画立案から次回への引継ぎまで1枚でPDCAが完結する素晴らしいフォームです。

#### ●充実した手づくりおやつが子どもたちの楽しみにつながっています

学童クラブ内に「おやつリクエストボックス」を設置し、子どもたちからのリクエストを受け付けています。決まった時間帯に、学年ごとにおやつを提供していますが、毎日最低でも1品の手作りおやつを必ず入れています。クッキーやポテト、白玉だんごやケーキなど簡単なものですが、区内随一と自負できる内容となっています。保護者からも喜ばれる取り組みとなっています。

### ◇更なる改善が望まれる点

#### ●スマートフォン世代の保護者に合わせた情報の発信方法の工夫が望めます

乳幼児には、発達に合わせた玩具や絵本を選定したり、職員が積極的に関わりながら、親子が安心感の中で過ごせる居場所づくりを行うなど子育て支援を行っていますが、スマートフォン世代の保護者の状況に合わせて、チラシやポスターにQRコードを添付するなどの広報活動への一層の工夫が望めます。

#### ●今後の中高生の利用促進への取り組みを期待します

施設の構造上、中高生が利用するには少し狭いというハンディキャップがあり、「中高生タイム」を設けて卓球やボードゲームの時間を設けていますが、実際中高生の利用はあまり進んでいません。今年度は近隣の2校の中学校の職場体験を受け入れたり、学童クラブの利用者だった子どもたちがOB・OGとして来館するようになっていきます。中高生の利用の仕方やイベントの工夫など、中高生の意見を取り入れながら、地域の企業とコラボレーションを図るなど、児童館ならではの活動の展開につながることを期待します。